

■ PCN だより

PCN Volume 64, Number 1 の紹介 (その 1)

PCN Volume 64, Number 1 には、外国からの投稿として、Regular Article 6 本が掲載されている。今回はこれらの内容を紹介する。

Regular Article

1. Deterioration of intelligence in methamphetamine-induced psychosis: compares with alcohol dependence by WAIS-III

S-K Lin, M-C Huang, H-C Lin, and C-H Pan

Taipei City Hospital and Taipei City Psychiatric Center, Department of Psychiatry, Taipei Medical University, Taipei, Taiwan

メタアンフェタミン誘発性精神病における認知機能の低下について—WAIS-III によるアルコール依存との比較—

【目的】メタアンフェタミンの長期連用は精神症状を惹起するが、認知機能に対する影響についてはほとんど調べられていない。アルコール長期連用によっても認知機能障害が起こりうる。これと比較して検討した。【方法】34 名のメタアンフェタミン誘発精神病患者 (28.7±6.1 歳) と 34 名のアルコール依存患者 (40.7±7.3 歳) について WAIS-III 中国語版にて IQ を比較した。

【結果】メタアンフェタミン精神病患者とアルコール依存者における得点を、それぞれの項目のカッコ内に、先にメタアンフェタミン精神病患者の点数を、後にアルコール依存者の点数を示す。総 IQ (82.3±10.8, 90.5±12.0), 言語性 IQ (84.3±11.9, 95.2±11.3), 動作性 IQ (81.9±12.1, 86.0±13.7), 言語理解 (85.5±11.9, 95.5±

11.0), 作業記憶 (84.7±12.5, 87.1±14.5), 感覚統合 (85.4±13.6, 96.2±13.1), 処理速度 (78.5±12.7, 84.5±15.0)。メタアンフェタミン精神病患者については、6 例 (17.6%) の総 IQ が 70 未満, 13 例 (38.2%) が 85 未満であったのに対して、アルコール依存者の総 IQ では、1 例 (2.9%) が 70 未満, 10 例 (22%) が 85 未満であった。【結論】メタアンフェタミン長期連用により精神症状のみならず認知機能低下が起こりうる。メタアンフェタミン精神病患者ではアルコール乱用者より IQ の低下が大きいことが推察され、このようなメタアンフェタミン精神病患者の認知機能の低下を正しく評価することはリハビリプログラムの実施においても有用である。

2. The effect of bromocriptine on antipsychotic drug-induced hyperprolactinemia: an 8-week randomized, single-blind, placebo-controlled, multicenter study

M-S Lee, H-C Song, H An, J Yang, Y-H Ko, I-K Jung, and S-H Joe

Departments of Psychiatry and Biostatistics, Korea University, College of Medicine, Seoul, Korea

抗精神病薬により惹起される高プロラクチン血症に対するプロモクリプチンの効果—8 週間、ランダム化、単盲検、プラセボ対照、多施設研究—

【目的】臨床場面における抗精神病薬により惹起される高プロラクチン血症に対するプロモクリプチンの有用と安全性を検討すること。【方法】本研究は、8 週間、ランダム化、単盲検、プラセ

ボ対照, 多施設研究である。60名の女性統合失調症患者をプロモクリプチン2.5 mg/日, 5 mg/日, 10 mg/日, プラセボの4群にランダムに割りつけた。ベースライン時, 4週後, 8週後に血中のプロラクチン, エストラジオール (E2), LH, FSHを測定した。錐体外路症状 (EPS) は Simpson-Angus 尺度により, 臨床症状は Positive and Negative Syndrome Scale (PANSS) により評価した。【結果】60名のうち40名が試験を終了し, その内訳は2.5 mg群14名, 5 mg群13名, 10 mg群11名, プラセボ群10名であった。10 mg群の4名, 5 mg群の2名, プラセボ群の1名に月経の再開が見られた。プロラクチン値は4週目で有意に低下し, その後は一定値を示していた。LH値, FSH値, E2値には8週間を通じて有意な変化を認めなかった。【結論】抗精神病薬により惹起された高プロラクチン血症に対して, プロモクリプチンは精神症状の増悪も, 錐体外路症状の増悪もなく, 有用な治療法である。

3. Risperidone in the treatment of mixed state bipolar patients: Results from a 24-week, multicenter, open study in Korea

YS Woo, W-M Bahk, D-I Jon, S-K Chung, S-Y Lee, YM Ahn, C-U Pae, H-S Cho, J-G Kim, T-Y Hwang, H-S Lee, KJ Min, K-U Lee, and B-H Yoon

Department of Psychiatry, College of Medicine, Catholic University of Korea, Department of Psychiatry, Seoul National University Hospital, Department of Psychiatry, Yonsei University, College of Medicine, Department of Neuropsychiatry, College of Medicine, Chung-Ang University, Seoul, Department of Psychiatry, College of Medicine, Hallym University, Anyang, Department of Psychiatry, Chonbuk National University Medical School, Jeonju, Department of Neuropsychiatry, College of Medicine, Wonkwang University, Iksan, De-

partment of Psychiatry, Maryknoll Hospital, Busan, Yong-In Mental Hospital, Yongin and Naju National Hospital, Naju, Korea

双極性障害の混合状態に対するリスペリドン—韓国における24週間多施設オープン試験—

【目的】双極性障害の混合状態に対する気分安定化薬とリスペリドンの併用療法の効果を検討した。【方法】本研究は, 気分安定化薬に加えてリスペリドン併用の効果について24週間, オープンの前向き研究を行った。躁状態あるいは混合状態の双極性障害患者114名に対して, 気分安定化薬に加えてリスペリドン (1~6 mg/day) を臨床症状と耐用性に応じて任意の用量を追加投与した。【結果】44名が混合状態, 70名が躁状態と診断された。患者の平均年齢は 39.0 ± 11.0 歳で55.3%が女性であった。気分安定化薬に加えてリスペリドンを併用した群では, 24週後のYMRS, HAMD, BPRS 18項目, GAS, CGI-BPのいずれにおいても有意に改善していた ($p < 0.0001$)。YMRS, BPRS, GAS, CGI-BP得点は躁状態でも混合状態でも共に有意に改善していた。24週後のYMRS得点の反応率は84.2% ($n=96$), YMRSによるレミッション率は77.2% ($n=88$)であった。24週後には74名 (64.9%) がYMRS ≤ 12 とHAMD ≤ 7 の基準を満たしていた。リスペリドンの耐用性はよくて副作用は軽度であった。【結論】気分安定化薬に加えてリスペリドンの併用は, 双極性障害の躁状態および混合状態に対して有効で安全性の高い治療法であることが示唆された。

4. A trial of aripiprazole in the treatment of first-episode schizophrenia

H-Y Lee, B-J Ham, R-H Kang, J-W Paik, S-W Hahn, Moon-S Lee, and Min-S Lee

Clinical Research Center for Depression, Institute of Human Behavior and Gene, Department of Psychiatry, College of Medicine, Korea University, Department of Psychiatry, College

of Medicine, Kyunghee University and Department of Psychiatry, College of Medicine, Soonchunhyang University, Seoul, Korea

統合失調症初回エピソードに対するアリピプラゾールの有用性について

【背景】アリピプラゾールは成人の統合失調症患者に対して有用な非定型抗精神病薬である。統合失調症、統合失調感情障害に対して有用であることが知られているが初回エピソードの統合失調症患者に対する有用性について検討した。【方法】DSM-IVによる統合失調症の初回エピソード患者21名について検討した。アリピプラゾール治療の前、1, 2, 4, 8週後にPositive and Negative Symptom Scale (PANSS) とClinical Global Impressions Scale (CGI) にて評価した。副作用についてはUdvalg for Kliniske Undersøgelser (UKU) Side-Effect Rating Scale にて評価し、体重とプロラクチン値についても評価した。【結果】アリピプラゾールによる治療1週間後に有意な有用性が認められた。1週間後にはPANSSの全得点もサブスケール得点も有意に低下し、それ以降の8週間は維持されていた。CGI得点も2週間後には有意に改善を示し、それ以降も改善が維持されていた。体重は有意な増加を認めなかった。プロラクチン値については8週間後に低下傾向にあったが有意な差異ではなかった。【結論】本研究はアリピプラゾールは統合失調症の初回エピソード患者に対するすぐれた有用性と耐用性を示唆している。より大規模な検討が必要であろう。

5. Behavioral problems and parenting style among Taiwanese children with autism and their siblings

SS-F Gau, M-C Chou, J-C Lee, C-C Wong, W-J Chou, M-F Chen, W-T Soong, and Y-Y Wu

Department of Psychiatry, National Taiwan University Hospital, Department of Psychiatry, College of Medicine, National Taiwan Univer-

sity, Taipei, Child Assessment Early Intervention Center, Branch for Women and Children, Taipei City Hospital, Taipei Department of Child Psychiatry, Chang Gung Memorial Hospital, Kaohsiung Medical Center, Chang Gung University College of Medicine, Kaohsiung Department of Child and Adolescent Psychiatry, Taoyuan Mental Hospital, Department of Health, Executive Yuan, St Joseph's Hospital, Yunlin County and Department of Child Psychiatry, Chang Gung Memorial Hospital at Taoyuan, Chang Gung University College of Medicine, Taoyuan, Taiwan

台湾の自閉症患児とその同胞の問題行動と親の対応について

【目的】自閉症は問題行動と不適切な両親の対応により、同胞に対する影響が起ころう。本研究では台湾における漢民族の自閉症患児とその同胞について問題行動と両親の対応について検討することを目的とした。【方法】DSM-IVによる3~12歳の自閉症患児151名、自閉症のない同胞134名、近在の対照113名について調べた。両親からparental styleと心理状態についての情報を入手し、さらに母親からは患児の問題行動についての情報を入手した。【結果】自閉症患児群では、他の2群と比較して、より重度の問題行動があり、両親からのaffectionが少なく、overprotectionとauthoritarian controllingが多かった。同胞群では、対照群と比較して問題行動が多く、母親からの世話が少なかった。引きこもり、注意、社会性、思考の問題が自閉症患児群と他の群との間で有意な問題行動であった。【結論】幅広い問題行動と親子関係の障害を自閉症患児は呈しているが、自閉症患児の同胞も同様の問題に対するリスクが高いことが示唆された。

6. Clinical and pharmacologic risk factors for neuroleptic malignant syndrome and their association with death

Ü. Tural, and E. Önder

Department of Psychiatry, Medical Faculty,
Kocaely University, Kocaeli, Turkey

抗精神病薬による悪性症候群とそれによる死亡の
臨床的薬理学的リスクファクター

【目的】トルコにおける抗精神病薬による悪性
症候群 (NMS) とそれによる死亡についての疫
学的, 臨床的な検討を目的とした。【方法】
1985~2005年間の Turkish Psychiatric Index
から悪性症候群 (NMS) を選び出し, 抗精神病
薬のタイプ, 用量, 投与期間を調べ, 同時に臨床
症状と検査値, 生命予後について調査した。【結
果】NMS 症例は 36 症例, 平均年齢 $33.67 \pm$
 16.98 歳であった。15 例 (41.7%) は統合失調
症および他の精神病の診断であり, 14 例 (41.7

%) は気分障害の診断であった。22 例 (61.1%)
は高力価の定型抗精神病薬の使用であった。非定
型抗精神病薬による NMS は 1 例のみであった。
大部分の症例 ($n=19$, 52.8%) において NMS
の発現は薬剤使用 7 日以内であった。大部分の症
例でいろいろな対処法がなされていたが, プロモ
クリプチンが最も多く使用されていた ($n=22$,
61.1%)。36 名中 5 名が死亡していたが, ベンゾ
ジアゼピンは死亡を防ぐために有意に役立ってい
た。年齢のみが NMS による死亡と関連してい
た。【結論】ベンゾジアゼピンは NMS の治療に
使用されるべきである。トルコにおける NMS
による死亡率は他の発展途上国からの報告と比較
して低い。

(文責: 武田雅俊 PCN 編集委員長)